登米ひまわり訪問看護ステーション

症　例　概　要　利用者：90 歳代前半　女性　要介護　2

利用期間：令和5年 3 月 ～ 令和 5 年12 月現在

経過：令和5年2月に心不全症状増悪あり、救急搬送となり入院加療。その後、心不全症状改善し自宅退院。状態観察目的で同月訪問看護開始。

ADLは入院前程度には改善したが、もともと重症大動脈弁狭窄症あり、心不全増悪リスクも高く、車椅子移動や水分、食事制限のある生活を送っていた。外出はデイサービスに車椅子で庭に出る程度。認知機能低下はないが高度難聴あり、デイサービスでも会話を楽しめず、悲観的な発言が多かった。その中でも度々外出希望あり。縫物が得意でいつも素敵な洋服や置物を作成し過ごされていた。

内　　容

利用者さんは心不全増悪で入院加療後、今年3月に自宅退院され、状態観察目的で訪問看護が介入となりました。症状は安定していましたが、自宅内で無理をしないよう安静が必要であり、歯痒い毎日を過ごしていました。訪問のたびに「とーじぇんだー」と寂しさ訴えていました。合わせて「外に出てはダメなの?」、「車椅子で買い物に行ってみたい」などの希望が繰り返し聞かれていました。その都度安静の必要性をお伝えしていましたが、看護師たちも何とかしてあげたい思いがありました。ある日、瀬戸内寂聴の本を熟読し、「あれもダメ、これもダメではかえって動けなくなる、無理のない範囲で動いた方が良いと思う。」と熱弁された時があり、この言葉を受け取り動き始めました。

まずはご本人の希望を主治医と共有し病状的に可能かを確認、車椅子での移動を条件に買い物の許可を得ました。外出中の付き添いとして看護師が同行し、状態観察や緊急時の対応を行うことで準備を進めました。

当日は介護タクシーを利用し、いざ手芸品コーナーへ!事業所内のOTとカンファレンスを通して看護師でも可能な作業療法的なかかわり方として利用者さんの得意だった編み物をする事を提案しました。暗い色の糸は見えにくいため明るい色を、太さや値段も吟味しながら真剣に選んでいました。疲労感や不調を訴えることもなく、その後はフードスペースで水分摂取と休憩を取りながらお迎えを待ちました。息子様夫婦とこれまでの人生を振り返るようなお話をされ「買い物は3年振りだな。長生きしてて良かったなー。」と笑顔が見られました。到着して2時間に満たない間でしたが、とても充実した時間を過ごされていたように感じました。買ってきた毛糸を使って看護師と共同して縁起物の亀と招き猫を完成させました!その後もベストを編んだり折り紙等、目標を達成し、デイサービスも以前より楽しめている様子がありました。

ひまわりの訪問看護は病気や治療だけに関わっているのではなく、利用者さんとご家族の人生を理解し、生活の中で関わり、支援を行っています。これからも利用者さんに愛情を持った親身な対応を実施し寄り添い、その方らしい人生が送れるためのOURTEAMで訪問看護を実践していきます。